

健やかな心と体をもつ 児童の育成

【平成30年度】

児童自らが健康課題に関心をもち、アクティブライフを実現するための学習・活動の工夫



豊島区立 朋有小学校



はじめに

豊島区立朋有小学校長 西村 浩

本校では、平成28年度から体育科の授業研究を通して体力向上と児童の「健やかな心と体」を育む実践を継続しています。また、体育科の授業だけでなく、朋有小学校「児童の健やかな心と体を育むプログラム(10の取組)」を実践しています。

児童の健やかな心と体を育むためには、自らの健康への課題に関心をもち、それを様々な実践を通して達成しようとする態度と実践力を身に付けることが重要です。

本校の研究は児童にとって、将来の健康や豊かなスポーツライフにつながるものと考えます。今年度は、保健学習と食育に力を入れ実践してまいりました。その取組の成果や課題を検証し、さらに工夫・改善を行い、次年度以降に生かせるよう取り組んでまいります。

朋有小学校「児童の健やかな心と体を育むプログラム」

1. 児童の健やかな心と体を育むプログラム 10 の取組の基本的な考え方

本校は、平成 28・29・30 年度 東京都アクティブライフ研究実践校として「健やかな心と体をもつ児童の育成」の実現に向け、「児童の健やかな心と体を育むプログラム」を作成した。

昨年度までは、特に 10 の取組の 2・3・4・5・8 を校内研究で取り組んだ。

平成 30 年度は、豊島区教育委員会研究奨励校と東京都アクティブライフ研究実践校発表に向けて新たに取組 4 に走り方教室を加えるとともに取組 6、取組 8 を校内研究で深めていく。

取組 1 「体育・健康プラン」の推進
〈ねらい〉「体育・健康プラン」を学校経営方針に位置付け、学校教育活動全体を通して体育・健康に関する取組を推進する。
取組 2 体力テストの実施・結果・分析
〈ねらい〉児童の実態を把握し、その結果を分析し基礎資料とし体育科授業に活用する。
取組 3 「認め合い」「教え合い」「励まし合い」3つの合いを重視した体育科授業の工夫
〈ねらい〉仲間と豊かなかかわりを通して運動の楽しさ、心地よさを実感し、自らの心と体の変化に気付く授業を実践する。
取組 4 FC 東京キャラバン隊と走り方教室で創る授業
〈ねらい〉児童のやる気、考えを引き出し、体の動きを高める指導を工夫する。
取組 5 教員の指導力向上
〈ねらい〉児童の発達段階に応じた適切な指導の在り方、指導方法や実技指導の研修を行い、教員の指導力向上を図る。
取組 6 運動習慣・生活習慣の改善
〈ねらい〉家庭・地域・関係諸機関と連携し、運動習慣・生活習慣の改善を図る。 (学期 1 回アンケートを実施) ※アクティブライフ研究校(歯と口腔の健康づくり授業、がん教育授業、姿勢タイム、食育授業、保健学習)
取組 7 体力向上のための 1 校 1 取組運動
〈ねらい〉計画的に体育朝会でリズムダンス、長なわ、短なわを使った運動を行う。
取組 8 休み時間を活用した朋有エンジョイタイム(業間運動遊び)の推進
〈ねらい〉時間、施設を生かして運動遊びの機会を確保し、体力向上を図る。
取組 9 体育的行事等における運動意欲の向上、オリンピック・パラリンピック教育の充実
〈ねらい〉体育的行事への参加やオリンピックとの交流を通して、運動意欲を高める。 ※運動会、オリンピック・パラリンピックによる授業や講演など
取組 10 体育科授業のけが件数の分析と具体的な対策と取組
〈ねらい〉体育授業のけがの未然防止に努め、具体的な対策を考え授業改善を図る。 ※セーフスクールの取組(安全チェックカードの作成・工夫・改善)

2. 10 の取組実施計画

児童の健やかな心と体を育む取組は、短期的に成果が表れるものではなく、中・長期的な視野に立って取組の推進を図らなければならない。4年後の2020年オリンピックイヤーに目標が達成できるよう、この計画に沿って年度ごとに、継続的にその成果を把握し、取組の改善を図っていく。

取組	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
取組1 「体育・健康プラン」の推進	プラン作成・ 評価・改善	取組の検証 (豊島区教育委員会研究推進校発表)	ISS取組審査 東京都アクティブライフ研究実践校発表 豊島区教育委員会研究奨励校	体力向上 オリンピック・パラリンピック教育の充実	➡
取組2 体力テストの実施・結果・分析	5・6月実施 7・8月分析				➡
取組3 「認め合い」「教え合い」「励まし合い」 3つの合いを重視した体育科授業の工夫	仲間とかかわり、心と体の変化に気付く授業の推進				➡
取組4 FC東京キャラバン隊と走り方教室で 創る授業	児童のやる気を引き出す実践授業				➡
取組5 教員の指導力向上	実技研修を中心とした校内研修の充実				➡
取組6 運動習慣・生活習慣の改善	家庭・地域との連携、取組推進				➡
取組7 体力向上のための1校1取組運動	計画的な体育朝会の実施				➡
取組8 休み時間を活用した朋有エンジョイタイムの推進	時間、施設を生かした外遊びの推進				➡
取組9 体育的行事等における運動意欲の向上 オリンピック・パラリンピック教育の充実	計画的な運動会実施、オリンピック・パラリンピアン授業				➡
取組10 体育科授業のけが件数の分析と具体的な 対策と取組	安全チェックカード作成・工夫・改善				➡

1 研究主題設定の理由

平成 28・29 年度に豊島区教育委員会研究実践校、平成 28・29・30 年度に東京都教育委員会アクティブライフ研究実践校として、そして今年度、豊島区教育委員会研究奨励校として研究主題「健やかな心と体をもつ児童の育成」を目指し、研究を進めてきた。

平成 27 年度に実施した東京都の生活・運動習慣等調査結果より、児童の体力や運動能力が、ほとんどの種目で東京都の結果を下回っており、総合的に体力が低いことも分かりました。そのことを大きな問題と捉え、児童の運動への関心や意欲を高め、運動の楽しさと喜びを実感させながら、意図的・計画的に体力向上を図る必要であると考えた。

そこで、児童の心身ともに健全な発達を促し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育て、明るく楽しい生活を営む態度を育てていくことが重要と考え、運動領域と保健領域の指導内容の関連、体育・保健の指導につながる健康安全・体育的行事等との関連、児童の実態から計画、実施、評価、改善、外部人材活用を図ってきた。

平成 28・29 年度の成果として、「体育の学習は楽しい」と意識している児童は多くなった。一方で、「児童自らが健康課題に関心を持ち、進んで運動しよう」という意識は高くなかった。

そこで、今年度は保健領域と食育の指導の充実を図ることにした。

今までの研究に加え、児童自らが健康課題に関心を持ち、アクティブライフを実現するための学習・活動の工夫について追求することとした。

2 取組内容及び講師

平成
30
年
度

○研究発表に向けて共通理解を図る。

○研究授業 7 回（各学年・竹の子学級） 各学級 年 1 回授業（観察授業）

○体力テスト分析、心と体のアンケート実施

○研修（理論と実技）

※ F C 東京キャラバン隊コーチによる実技研修、朋有エンジョイタイム実技研修、姿勢タイム研修 等

○東京都教育委員会アクティブライフ研究実践校発表

・当日授業（1 年 1 組、2 年 1 組、3 年 1 組、4 年 3 組、5 年 2 組、6 年 2 組、竹の子学級）

・全体発表、パネルディスカッション

コーディネーター 東京学芸大学 准教授 鈴木聡先生

パネラー 渡邊高博氏、鯨井健太氏、本校校長

■講師：東京学芸大学准教授 鈴木 聡先生

豊島区教育委員 藤原 孝子先生

豊島区教育委員会 関根 憲一指導主事

■ F C 東京キャラバン隊コーチ普及部コーチ 鯨井 健太氏 他数名

■走り方教室講師：バルセロナオリンピック 400m 日本代表 渡邊 高博氏

■姿勢教室講師：一般社団法人日本姿勢教育協会理事 碓田 拓磨氏

3 研究構想図

平成 30 年度

基礎研究
先行研究
研究構想

- ・東京都教育ビジョン
- ・豊島区教育ビジョン 2015
- ・オリンピック・パラリンピック教育
- ・アクティブライフ研究実践校
- ・朋有小学校「児童の健やかな心と体を育むプログラム」10 の取組

＜学校教育目標＞

- ・にっこりあいさつ
- ・はっきりすてきなことば
- ・やる気いっぱい心ひとつに

＜児童の実態と育てたい力＞

ISS 認証校として日常のけがの防止に努めているが、児童が健康に関心をもち、進んで運動する意識は高くない。児童が心や体の健康問題に気付き、解決するために進んで運動する力を育みたい。

＜学習指導要領の理解＞

「運動に親しむ資質や能力の育成」
・「健康の保持増進」・「体力向上」
3 つの具体的目標を関連付ける。

児童が主体的に運動し学習する喜びを分かち合う力をもつ

＜体力テストによる実態＞

学年によって 50m の記録はよい。特に 2 年男子、6 年女子がよい。その他の種目は各学年ともに低い。

＜目指す児童像＞ ○笑顔ではっきりと自分を表現できる健やかな心と体をもつ児童
低 自分の健康に関心をもち、いきいきと生活する児童
中 自分の健康への課題を見付け、解決方法を考え、表現する児童
高 自分や他者の健康への課題を見付け、解決方法を考え、互いに表現し合う児童
竹の子 自分の生活をふりかえり、元気に生活する児童

＜研究主題＞

「健やかな心と体をもつ児童の育成」

ー児童自らが健康課題に関心をもち、アクティブライフを実現するための学習・活動の工夫ー

＜研究仮説＞

仲間と豊かなかかわりをもって積極的に学習・活動すれば、自分の健康課題に関心をもち、アクティブライフと体力向上を図ることができる。

＜研究のねらい＞

- 仲間と豊かにかかわり学習・活動の楽しさ、喜びを共感しながら、健康課題に関心をもち。
- アクティブライフの実現と体力向上を図る。

＜研究内容＞

【調査研究】・体力テストの結果分析。「運動・健康に関するアンケート」を作成・実施し、検証授業前の児童の実態、後の児童の意識の変容を把握する。

【実践研究】・仲間と協力して豊かなかかわりをもたせながら、健康課題を達成させるためにどのような指導の工夫をすれば良いか。（学習過程の工夫）

- ・アクティブライフに繋がるよりよい態度を育むためには、どのような指導の工夫をすれば良いか。（態度）

- ・子供の姿をどのように評価するのか。（評価）

＜1 学期＞

- ・研究計画の作成（発表に向けて）
- ・研究内容の検討
- ・授業実践 ・実技研修

＜2 学期＞

- ・授業実践
- ・東京都アクティブライフ研究実践校研究発表
- ・実技研修

＜3 学期＞

- ・授業実践
- ・実技研修
- ・研究のまとめ

調査研究

意識調査

授業研究

評価

朋有小の児童の変容

教師の授業力向上

保護者・地域の信頼

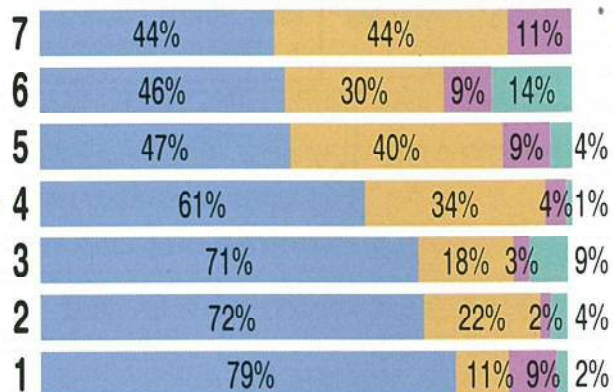
4 心と体のアンケート

*1から7までの数字は学年を表し、7は特別支援学級とする。

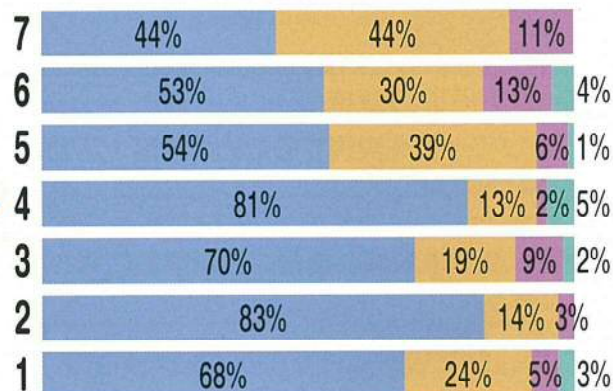
質問1

あなたは運動（体を動かすこと）が好きですか。

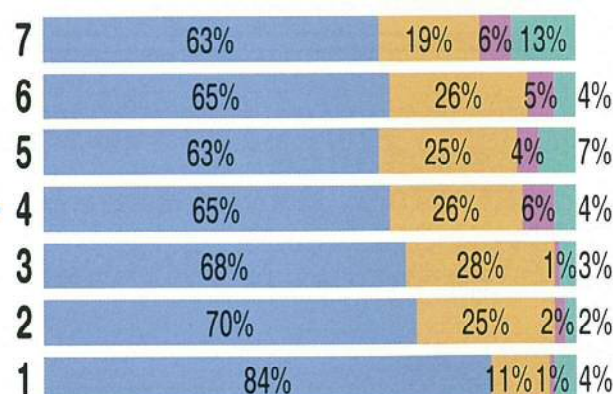
平成二十八年
度三学期



平成二十九
年度一学期



平成三十
年度一学期

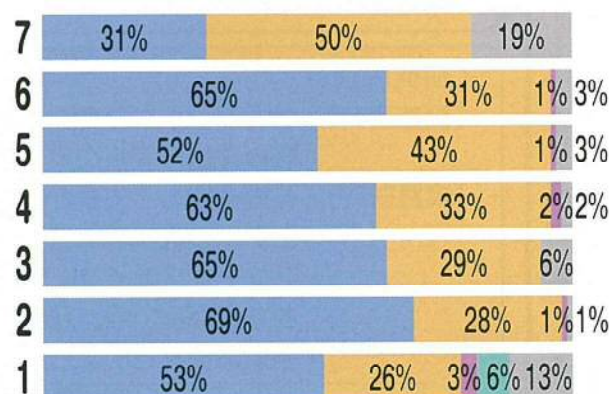
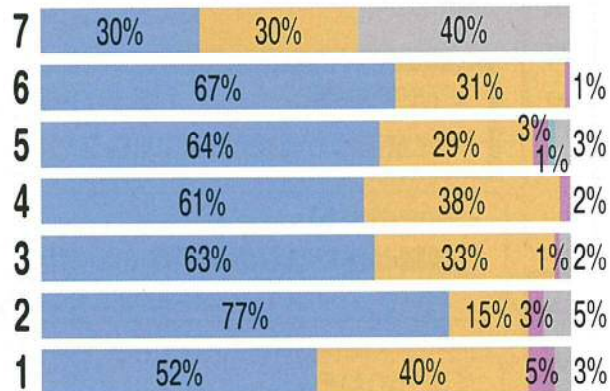
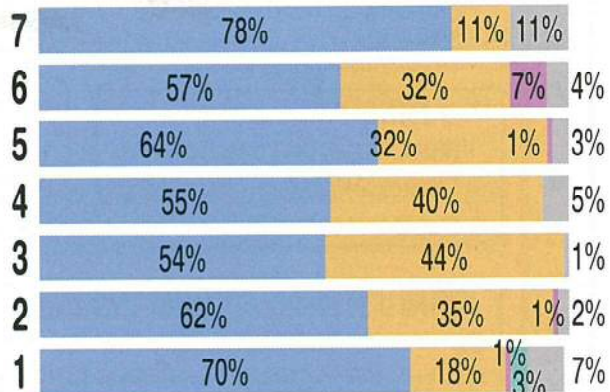


■好き ■やや好き ■やや嫌い ■嫌い

運動に対して肯定的に捉えている児童が多く、学年が上がるにつれて減少する傾向も緩やかになった。

質問2

あなたはいつも何時に起きますか。

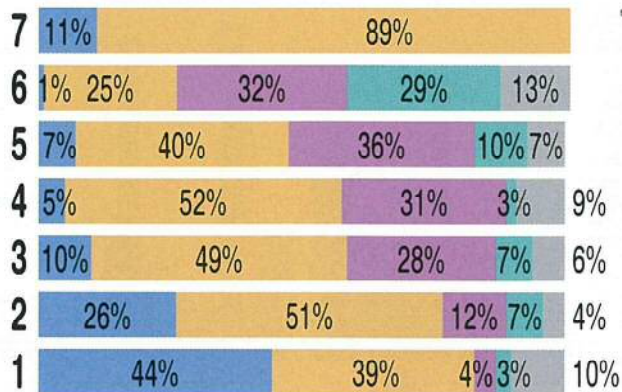


■7時より前 ■7時～7時半 ■7時半～8時
■8時過ぎ ■わからない

7時前や7時半までに起きている児童が大多数で、学年によるばらつきは見られない。

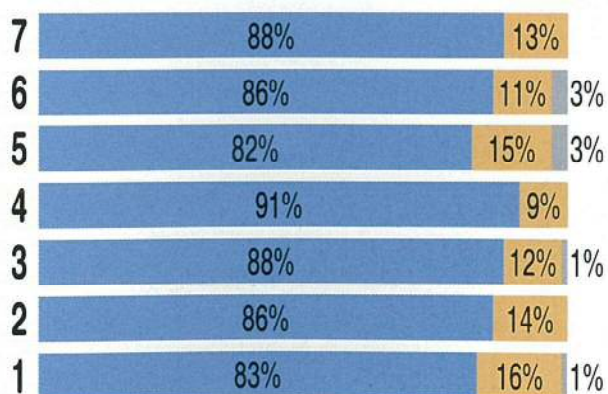
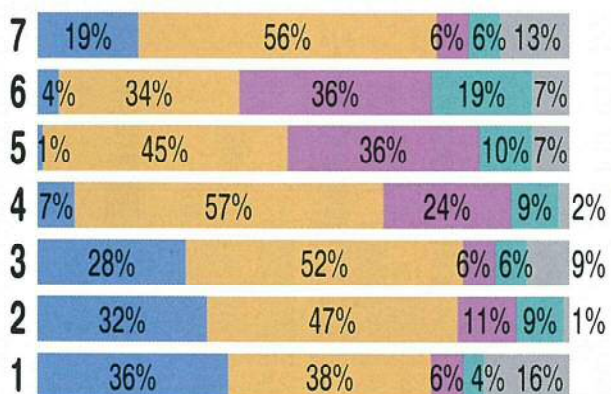
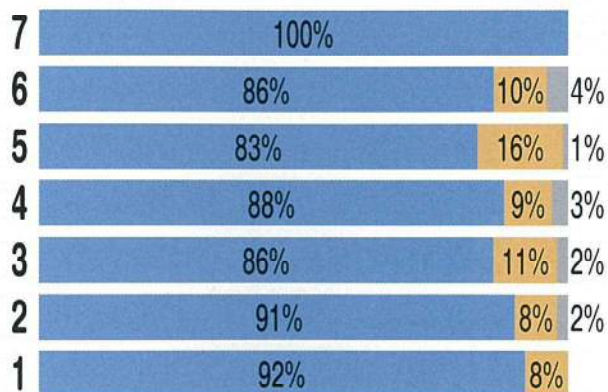
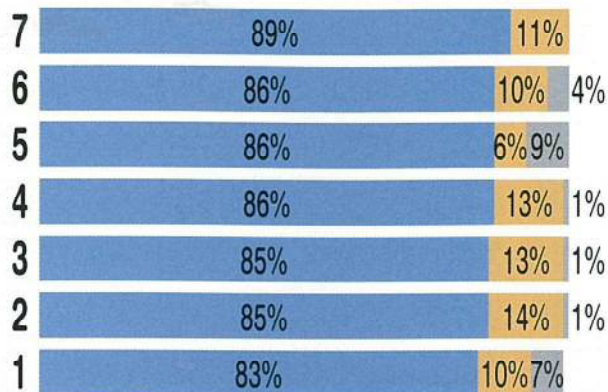
質問3

あなたはいつも何時に寝ますか。



質問4

あなたはいつも朝ご飯を食べていますか。



9時より前 9～10時 10～11時
11時以降 わからない

毎日食べる 食べない時もある ほとんど食べない

9時から10時の間の割合が高く、学年が上がるにつれて時刻が遅くなっていることが分かる。

毎朝しっかりと朝ご飯を食べている児童が9割近くいることが分かる。

質問5

普段自分は、どんな体の調子の時が多いですか。

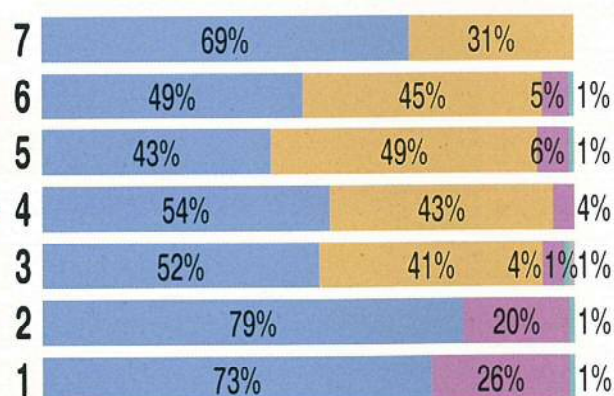
平成二十八年
度三学期



平成二十九
年度一学期



平成三十
年度一学期



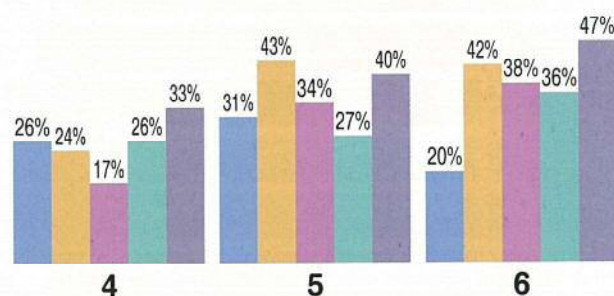
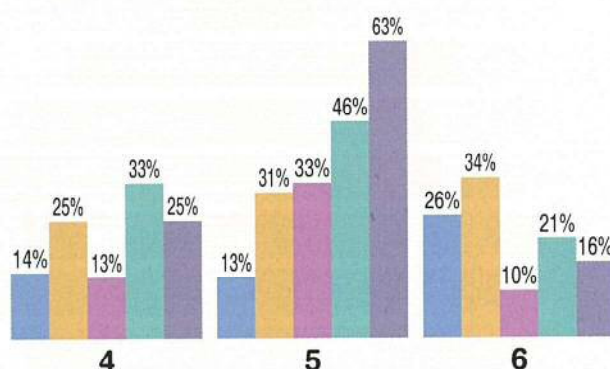
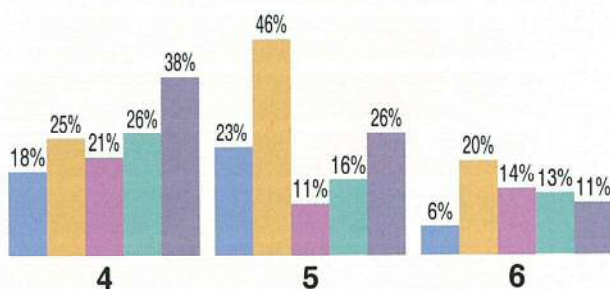
■ 元気 ■ 元気なときが多い ■ よく具合が悪くなる
■ いつも元気がない ■ わからない

肯定的に答える児童がほとんどで、特に中学年以上の児童は元気と答える割合が高くなった。

質問6

(複数回答可)

不安や悩みを抱えたとき、どうしていますか。



■ 運動する ■ 寝る ■ 本を読む
■ 一人で抱える ■ 相談する

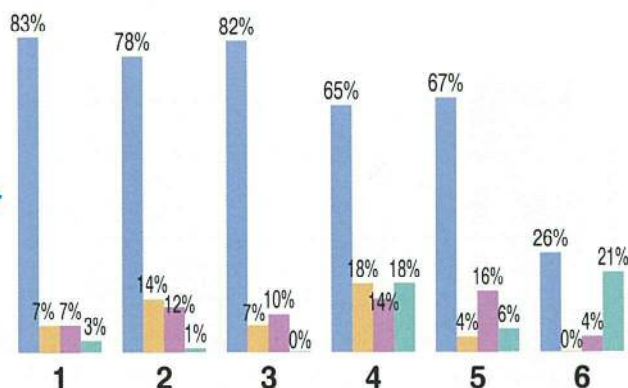
全体的に回答数が増え、自分なりに不安や悩みへの解消法を見付けている児童が多くなった。

質問7

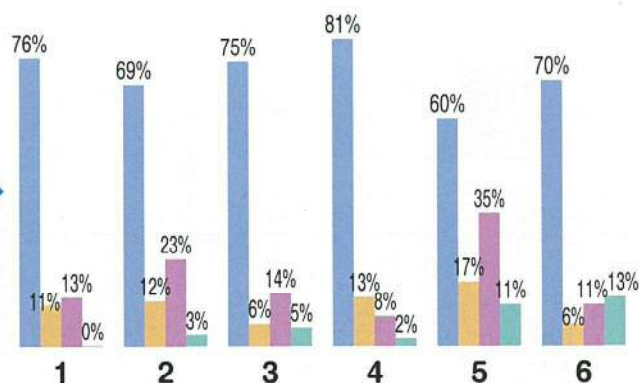
(複数回答可)

休み時間に何をして過ごすのが好きですか。

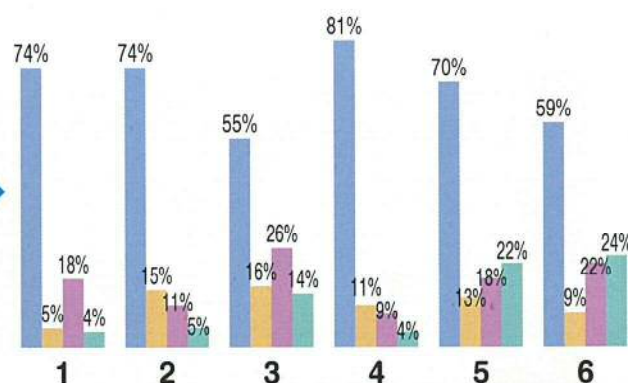
平成二十八年 度三学期



平成二十九 年度一学期



平成三十 年度一学期

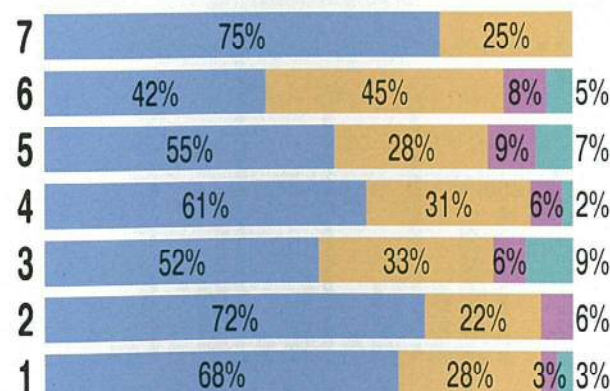
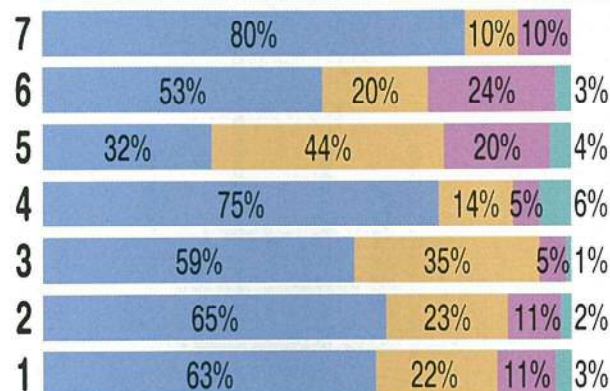
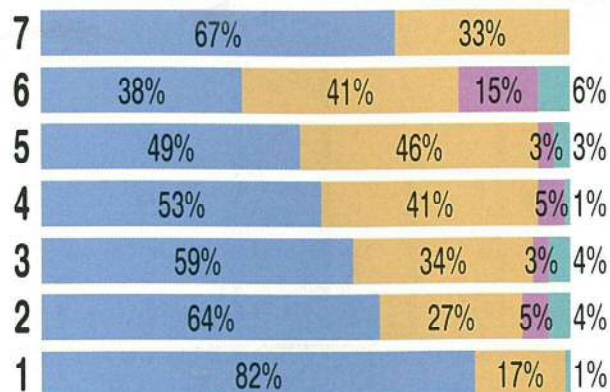


■ 外遊び ■ 一人遊び ■ 読書 ■ そのほか

割合としては外遊びが一番多いが、読書と回答する児童の割合も高いことが分かる。

質問8

休み時間に外遊びをするのは好きですか。



■ すき ■ やや好き ■ やや嫌い ■ 嫌い

外遊びをするのが好きと回答する児童が多く、好きではないと回答する高学年の割合が減少した。

質問9

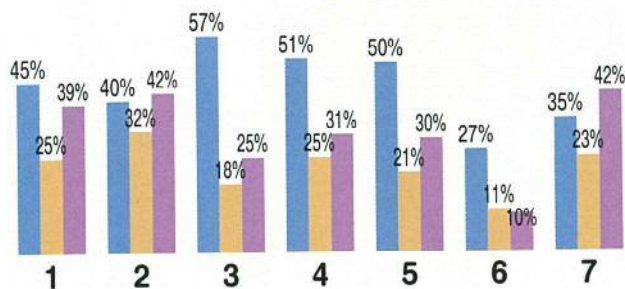
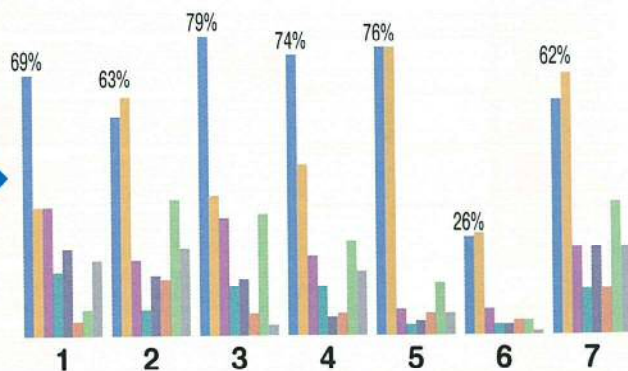
(複数回答可)

外遊びでは、何をして遊んでいますか。

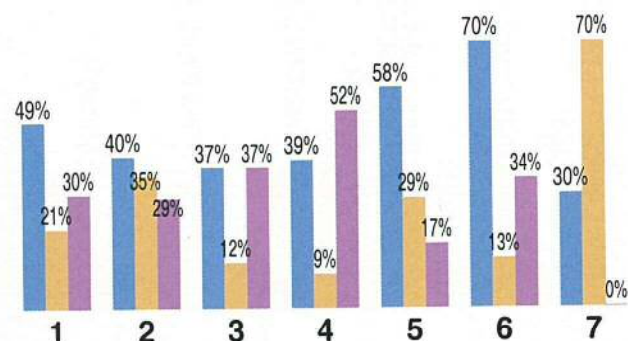
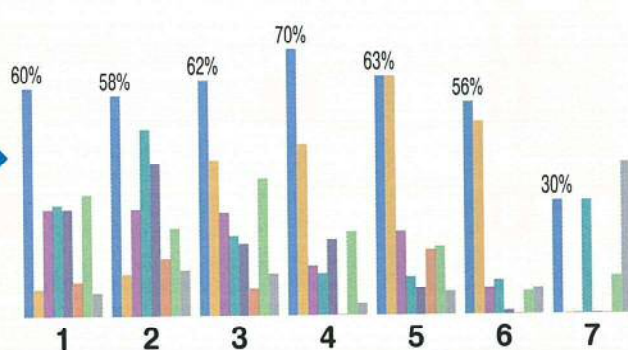
質問10

放課後に外遊びや運動をしていますか。

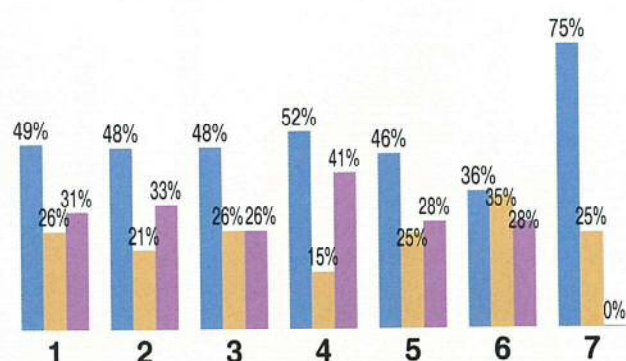
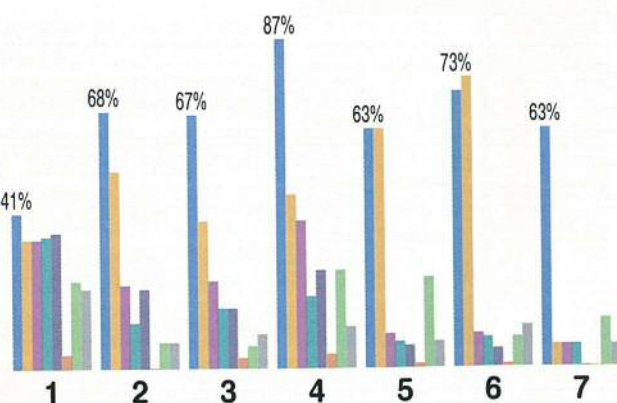
平成二十八年 度三学期



平成二十九 年度一学期



平成三十 年度一学期



鬼遊び ボール遊び 鉄棒 のぼり棒
うんてい 竹馬 一輪車 その他

している していない 習い事でしている

どの学年も鬼遊びが人気で、次いでボール遊びが人気だということが分かる。

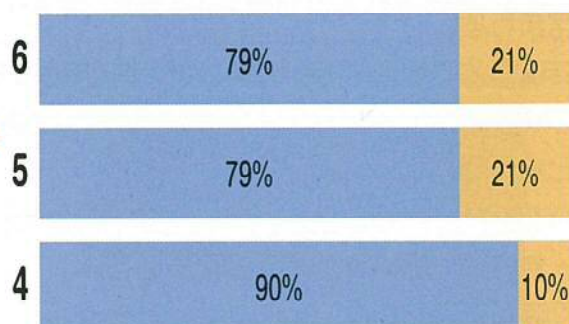
年度毎にばらつきが見られるが、約半数の児童が放課後に外遊びをしていることが分かる。

平成28・29・30年度の 結果から

質問11

スポーツをしていて、楽しいときはありますか。

平成二十八年度三学期



平成二十九年度一学期



平成三十年度一学期



■ ある ■ ない

8割の児童がスポーツをしていて楽しいときがあると回答した。

●平成28年度から29年度にかけて運動が好きと回答する児童の割合はわずかに増加し、30年度においても増加傾向が見られる。特に高学年で肯定的な回答をしている児童が増加し、学年によるばらつきはほとんど見られなくなった。

●「体育科学習の運動従事時間を確保したり、朋有エンジョイタイムを効果的に活用したりすることで、スポーツをしていて楽しいときがあると回答している児童の割合や、中・高学年において、9時～10時の間に寝ている割合も増えている。

●不安や悩みを抱えたときの対処法については、全体的に回答数が多くなり、児童自身が不安や悩みに対する解消法を見付けることができるようになってきていることが分かる。

●体の調子が元気と答えている児童も、微量ながら増加傾向であるが、低学年では元気がないと答える児童も多い。そのため、今後も心に根ざした学習として、食育や保健学習を通して自分自身や他者の健康について考え、心も元気な児童の育成を図っていく必要がある。

5 研究の内容

本校では、研究主題「健やかな心と体をもつ児童の育成」と設定し、目指す児童像の捉え方として以下のように考える。

○「健康への課題」⇒「生活を振り返る」「関心をもつ」「課題を見付ける」という段階を踏む。

○「いきいきと」⇒心と体が健やかな状態でバランスの良い状態。

「元気に」⇒心と体が健やかだが、特に体に重点を置いた言葉。

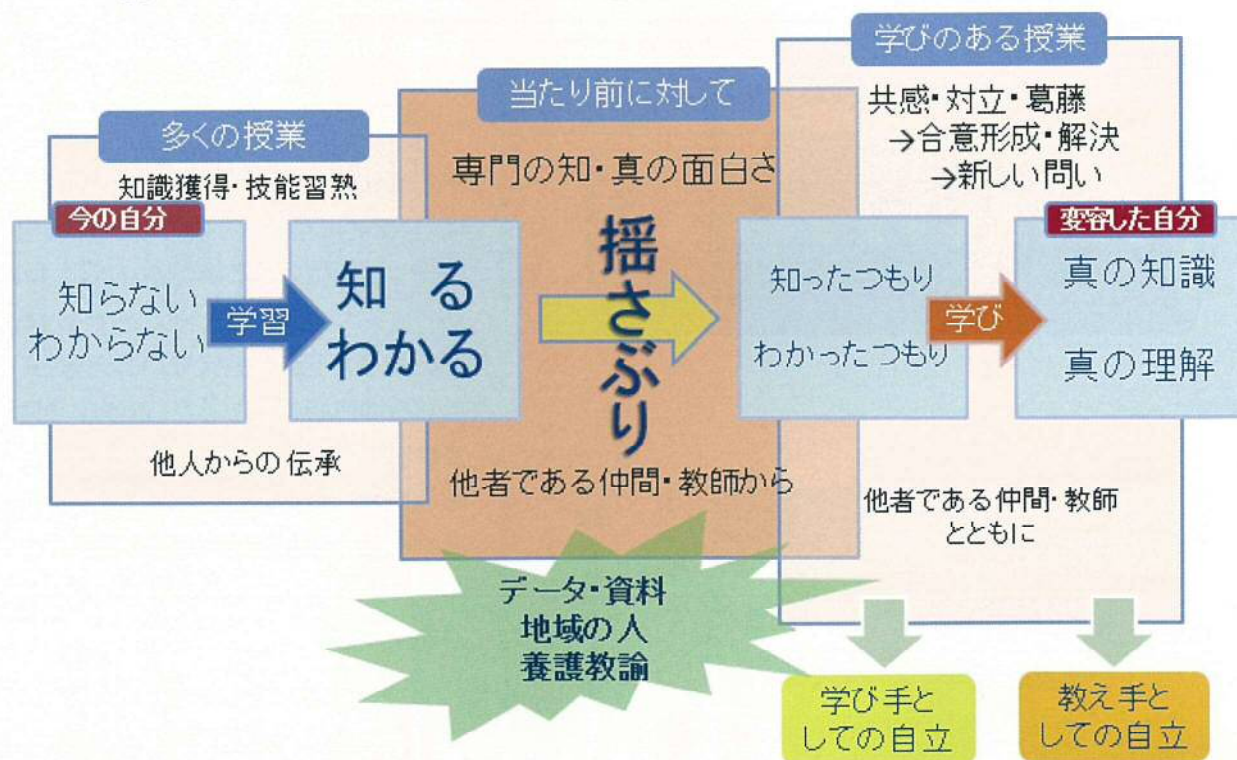
○「他者」⇒がん教育等、友達だけでない対象も含まれる。

研究のねらいを「仲間と豊かなかかわりをもって積極的に学習・活動の楽しさ、喜びを共感しながら、健康課題に関心をもつ。」「アクティブライフの実現と体力向上を図る。」とし、体力を「運動するための体力+健康に生活するための体力」と考える。

今年度、各分科会で体育科保健領域と食育について研究を深めている。授業においては学習指導要領における位置付けを明確にし、児童の主体的・対話的で深い学びを目指している。

そこで、授業においては、以下のような考え方で進めている。

授業における「揺さぶり」の機能



主体的に探究し、学び合う保健学習・食育学習

- 1 教師(担任・養護教諭・栄養士)が学習内容を明確に捉える。
- 2 児童の「思考」を活発にする。
- 3 児童が生活経験に基づいたり、知識を活用したりして考える展開を工夫する。

1 授業実践

研究主題に迫る具体的な手だてとして、(1) 児童自ら健康課題に関心をもつための工夫 (2) 健康課題を解決するための工夫 (3) 解決した課題を表現するための工夫として研究授業を実践した。体育科運動領域では、研究主題に迫る手立てを昨年度に引き続き、(1) 仲間と豊かにかかわりながら運動に取り組む工夫 (2) 楽しみながら互いの技能を高め合う工夫としている。

以下は、今年度の研究発表で行った研究授業の様子である。

第4学年 体育「みんなで決めよう！ゴールめがけて！」

〈仲間と豊かにかかわりながら運動に取り組む工夫〉



- ゲームの楽しさが味わえるよう、チームの人数を少なくしてボールに積極的に触れられるようにしたり、ボールをフリーで操作できるフリーゾーンを設定したりするなど用具や規則の工夫を行う。
- チームワークタイムを設定し、ボール操作の技能だけでなく、お互いに励まし合い、教え合いの声かけができるようにする。
- セーフゾーンやゴールの位置をどこに設定するかを話し合わせ、攻め方や守り方を考えさせるようにする。

竹の子学級 日常生活の指導「めざせ！てあらいマスター！」

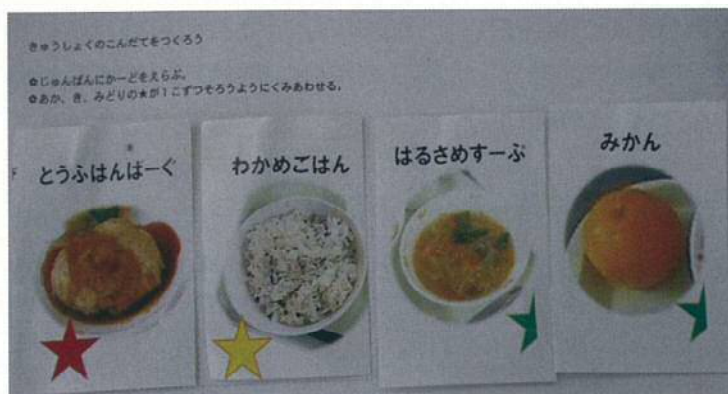
〈健康課題を解決するための工夫〉



- 手を洗うことの切実性をもたせるため、手にはたくさんの菌がついていることをイメージキャラクターやパンを使った菌の培養で視覚的に示す。
- 児童が手洗いに意欲的になるよう、簡単なメロディーにのせた手洗い歌を作成する。また、歌詞カードには、手洗いのポイントを示し、正しい手洗いができるようにする。
- ワークシートを、発達段階に応じてポイントや分かったことを書きやすいように示しながら、無理なく時間内に取り組める内容にする。

第1学年 食育「たべものばわあでげんきなからだをつくろう」

〈健康課題を解決するための工夫、解決した課題を表現するための工夫〉



- 単元を通して栄養士に授業に参加してもらい、色々な食品をバランスよく食べることの重要性などについて指導することで、好き嫌いをなく食べることの重要性に気付くようにする。
- 栄養士がどのような願いをもって献立を立てているのかを聞き、給食が栄養バランスを考えて作られていることを知るとともに、給食を残さず食べようという意欲を高められるようにする。
- 児童自身が給食の献立を立てる表現活動を取り入れることによって、学習したことの重要性について実感を伴いながら気付くようにする。

第2学年 食育「たべものパワーを知ろう」

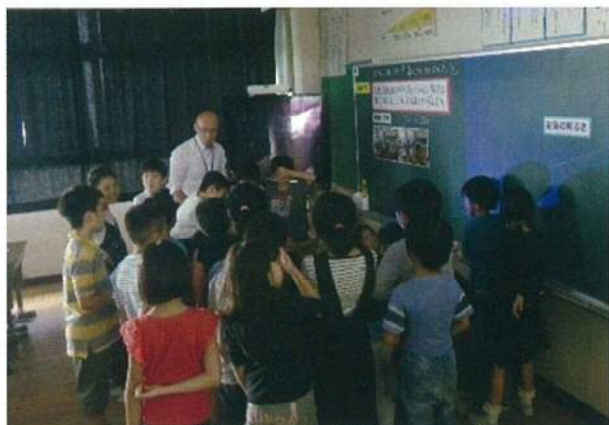
〈健康課題を解決するための工夫〉



- アンケートから児童の好きな給食メニュー、嫌いな給食メニューを出させ、自分自身の食生活を振り返らせる機会にする。児童の率直な意見を書いてもらい実態把握の手立てとする。
- 赤、黄、緑に色分けされたワークシートを用意し、視覚的に考えることができ、食品からどの色のグループの食材が使われているかを考えやすいように学習を進める。
- 偏った献立を見て、使われていない色のグループの食材が分かり、学習グループでアドバイスを考える活動を取り入れ、学級全体で共有する。

第3学年 保健「毎日の生活と健康」

〈児童自らが健康課題に関心をもつための工夫〉



○自分の生活環境を見つめ直す活動として、部屋の換気や明るさについて、普段、児童が学習している教室の環境や自分の家の部屋を具体的に考えさせることで、自分事として考えることができる。また、空気の流れを見える化する実験装置や照度計で数値を示すことで、より健康課題についての関心を高める。

○教科書の中の「もっと知りたい・調べたい」の内容を、その内容に関連した知識事項とともに、専門性が高い人物として認識していることが予想される養護教諭に話してもらうことで、健康課題や学習事項への関心が高まることが期待される。

第4学年 保健「育ちゆく体とわたし」

〈児童自ら健康課題に関心をもつための工夫〉



○生活習慣チェックシートを活用して、児童自身の生活習慣を見直す活動を行った。

○「睡眠について」「バランスの取れた食事について」「運動について」など、アンケートをとり振り返ることで自身の生活習慣を振り返る機会となる。

○睡眠や栄養についての知識について講義する時には、睡眠と栄養についての知識が深いと思われる養護教諭と栄養士が行うことによって子供たちの関心を引きつけることができる。

○より専門的な知識を得ることで、健康課題に対する切実性をもたせることができる。(なぜ、早く寝なければならないのか。なぜ運動しなければならないのか。)

第5学年 保健「けがの防止」

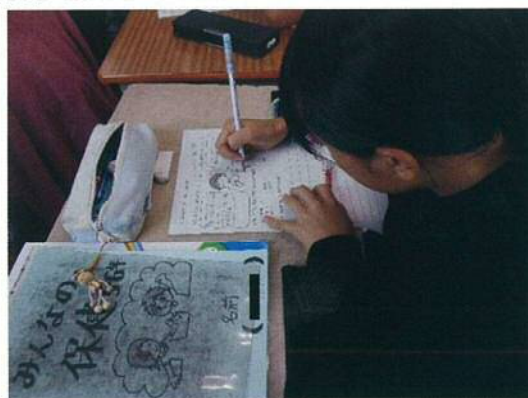
〈健康課題を解決するための工夫、解決した課題を表現するための工夫〉



- アンケート結果を提示したり、ISS の取組の一つである朋有小学校の「けがデータ」を分析したりすることで、自分達の課題を把握し、意欲的に解決方法を考えることができるようにする。
- 「これからの自分に生かすこと」を3日間のチェック欄で学習カードに設けることで、日常化を図る。
- 地域の写真や3年生の時に作った安全マップをICT でテンポ良く投影し、課題解決に役立てる。
- 学習後、全校朝会で行われるセーフタイムで、学んだことを全校児童へ伝えると共に、日常化を図る。

第6学年「病気の予防」

〈健康課題を解決するための工夫、解決した課題を表現するための工夫〉



- 豊島区教育委員会が制作した「がんに関する教育・小学校教材」を授業で活用することで、がんについての知識を効果的に学ぶとともに、課題解決に役立てるようにする。
- 病気の予防に対する「自分の課題」、学習を通して学んだ「自分なりの解決方法」について毎時間振り返られる学習カードを活用し、病気に関する知識や病気に対する自分の意識の高まりを実感できるようにする。
- 学習を通し、がんを予防するために自分がこれからの生活に生かしたいことや、家族に気を付けて欲しいことを手紙形式で書く。「手紙」という方法で、既習学習を生かしながら意欲的に学習内容を表現できるようにする。

7 成果と課題

これまでの本研究の成果と課題は以下の通りである。

成 果

- ・児童の実態に即した体育科の単元指導計画を作成したので、児童は見通しをもって楽しんで学んでいる。(知る→高める、チャレンジタイム、レベルアップタイムなど)
- ・横断的な単元計画の立て方や一単位時間の授業の流れなどを、共通理解することができた。
- ・児童の実態を把握し、そのデータを基に単元計画を立てることで、児童は自分事として学習に取り組んでいる。
- ・教材や発問を工夫し、児童に揺さぶりをかけたことで、児童自身が健康課題を解決していく必要があるという切実性をもつことができた。
- ・食育や保健学習を通して、児童自身の健康課題について考えたり、考えたことを実践しようとしたりする姿が見られるようになってきた。
- ・どの学年も、児童が楽しんで体育学習や朋有エンジョイタイムに取り組んでいる。
- ・走り方教室を計画的に行うことで走ることへの関心が高まり、体力テストの50m走で多くの学年の記録が伸びている。
- ・心と体のアンケート結果から、日常生活の中で、「元気」「元気なときが多い」と感じている児童がほとんどである。
- ・ゲストティーチャーを活用したことにより、専門的な知識を得たり課題の解決に役立てたりすることができた。

課 題

- ・平成29年度と30年度の豊島区学力調査の意識調査の結果を見ると、「体育が好き」は、平成29年度は76.1%から平成30年度は77.8%に上がっている。しかし、「授業外でよく運動する」は52.1%から47.2%に下がっている。今後も運動の日常化を図る。
- ・朋有エンジョイタイムは、週1回全校児童が外に出て遊ぶよい機会であるが、遊びを日常化するとともに、総合的な体力向上、特に握力、投力、持久力を高めるような工夫を図る。
- ・保健学習や食育学習を通して、児童自身の健康課題について関心をもつようになっている。今後は、単元で学んだことを日常生活の中に生かせるよう、体育科や食育全体計画の見直しをしていく必要がある。
- ・継続して健康課題を解決する実践をしていくために、どのような形で家庭と連携していけばよいか検討していく必要がある。

平成28・29年度に豊島区教育委員会研究実践校、平成28・29・30年度に東京都教育委員会アクティブライフ研究実践校として、そして今年度、豊島区教育委員会研究奨励校として研究主題「健やかな心と体をもつ児童の育成」を目指し、研究を進めてきました。今までの研究に加え、児童自らが健康課題に関心を持ち、アクティブライフを実現するための学習・活動の工夫について追求することとし、保健領域と食育の指導の充実を図ることにしました。

児童は、見通しをもって楽しんで学習していることや、食育や保健学習を通して、児童自身が健康課題について考えたり、考えたことを実践しようとしたりする姿が見

られるようになったことなど、多くの成果を得ることができました。

しかしながら、運動面については、授業以外で運動する割合が昨年度より減っていることや、総合的な体力向上、特に握力、投力、持久力を高める工夫を図るなど、多くの課題が残りました。継続して健康課題を解決する実践をしていくために、どのような形で家庭と連携していけばよいか今後も研究を重ねていきます。

最後になりましたが、本研究にご指導賜りました、東京学芸大学准教授 鈴木聡先生をはじめ、多くの先生方に心より感謝申し上げます。今後ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

ご指導
ご協力
いただいた
皆様

東京学芸大学 准教授

豊島区教育委員

豊島区教育委員会指導主事

一般社団法人日本姿勢教育協会理事

FC東京キャラバン隊普及コーチ

バルセロナオリンピック代表

鈴木 聡先生

藤原 孝子先生

関根 憲一先生

碓田 拓磨 氏

鯨井 健太 氏 他数名

渡邊 高博 氏

研究に
携わった
教職員

○：研究推進委員

校	長	西村 浩	副校長	八木田 修
1	年	○荒川 正宇	福崎 亜矢	横田 真由美
2	年	○高橋 恒介	吉川 和男	才原 知子
3	年	○彌永 英俊	○一瀬 麻子	
4	年	高井 智史	横田 孝夫	○渡邊 友希
5	年	鈴木 道雄	○島田 美裕	
6	年	野村 尚子	宇田 和也	
竹の子学級		酒井 尚子	山内 礼恵	○木村 喜好 鹿討 秀美
算数少人数		○山本 英征	日本語指導	会田 千絵子 竹内 加奈
音楽		平松 彩	図画工作	小島 啓子
栄養士		和久田 有未	養護	滝川 歩
事務		青木 崇	くわのみ教室(巡回指導員)	藤原 恵子 助 口 千紗都
特別支援教室専門員		石原 美江	特別支援学級指導員	石田 知子